

なんたん

脳卒中療養ガイド

監修：恵飛須 俊彦 公立南丹病院 統括部長・脳神経外科部長
山口 達之 公立南丹病院 神経内科部長



脳卒中連携ツール検討会

まえがき

患者・家族の皆さまには、脳卒中の突然の発症に驚き、症状や治療のこと、これからの生活のことを考えられ、様々な不安を抱えておられることと思います。

脳卒中は、ほとんど後遺症を残さずにすむ方もありますが、障害を持ち、第二の人生に向かって進まなければならない方もおられます。

在宅での生活に向けて、再スタートを切っていただくために、主治医や病院のスタッフの方々の説明を聴いて、これからの治療やリハビリ、生活を具体的にイメージしていただくために、ガイドを作成しました。

本ガイドは、脳卒中の医療や保健、福祉、介護に携わるメンバーで検討会を立ち上げ、

- ①患者・家族の皆さまが、安心して医療を受けられるよう、診療内容や退院・転院、その後の予定・見込みについての情報提供が受けられること。
 - ②患者・家族の皆さまが、自らのリハビリや生活について主体的に考え、治療意欲が向上すること。
 - ③患者・家族の皆さまが、医療・支援を切れ目なく一貫して受けられること。
- 以上、3つの目標を掲げて対策を進めているところから生まれました。

本ガイドは、脳卒中の症状や、治療、リハビリの方法、福祉制度などの基礎的な知識に加えて、南丹地域のさまざまな情報を紹介しています。皆さまの身近な手引き書として、活用いただければ幸いです。

最後に、ガイドの作成にあたり、御意見をいただいた脳卒中連携ツール検討会構成員の方々に深く感謝の意を表すとともに、完成まで終始御指導、御助言いただいた公立南丹病院の恵飛須俊彦部長、並びに山口達之部長の両先生、この企画を立ち上げ、先頭に立ってまとめてこられた前南丹保健所長の横田昇平先生に心からお礼申し上げます。

平成23年8月

脳卒中連携ツール検討会
(事務局：京都府南丹保健所)

ガイドの使い方

このガイドは、脳卒中の基礎を知り、これからの治療や生活に役立てていただくことを願って、作成しています。

病状や治療、生活は、お一人お一人違いますので、具体的なことは、主治医の先生にお伺いになるなどしていただければと思います。

この冊子をお読みになり、脳卒中についての知識と理解を深めていただくことで、主治医の先生や他のスタッフの方々のお話が、少しでもわかりやすくなれば幸いです。

目次

○脳卒中ってどんな病気

- 脳卒中…………… 2
 - ・脳卒中のタイプ…………… 2
 - ・検査画像でみると…………… 3
 - ・脳梗塞の成り立ちと種類…………… 4

○症状と治療

- 脳卒中の発作によって起こる症状… 6
 - ・発作によって起こる症状…………… 6
- 画像検査…………… 7
 - ・画像検査の種類…………… 7
- 治療法…………… 8
 - ・急性期治療の流れ…………… 8
 - ・脳梗塞…………… 9
 - ・脳出血…………… 10
 - ・くも膜下出血…………… 11
- 退院(転院)までの経過…………… 12
- 脳卒中の主な後遺症…………… 13
- リハビリをサポートする人…………… 14
- リハビリの流れ…………… 15

○生活支援に関する制度

- 介護保険制度…………… 17
 - ・サービスの種類…………… 17
 - ・サービスの費用…………… 17
 - ・手続き…………… 18
 - ・サービスの対象…………… 18
 - ・担当窓口…………… 19
- 身体障害者手帳制度…………… 20
 - ・障害認定の時期…………… 20
 - ・手帳の交付…………… 20
 - ・交付対象者…………… 20
 - ・交付申請手続…………… 21
 - ・担当窓口…………… 21
 - ・福祉サービスのあれこれ…………… 22
- 医療費に関する制度…………… 23
 - ・高額療養費…………… 23
 - ・福祉医療…………… 26

○再発防止

- 再発防止のために継続管理が大切… 28
 - ・再発予防の3本柱…………… 28
 - ・降圧目標(めざす血圧)…………… 29
 - ・生活習慣の改善…………… 29
- 何か様子がおかしいと思ったら… 30